

[成果情報名] **黄色粘着トラップでの捕獲によるアスパラガスのネギアザミウマの冬季防除**

[要約] グリーンアスパラガスのハウス栽培において冬季に成茎を刈り取った後、ビニル被覆による保温開始と同時に黄色粘着トラップを設置することにより、若茎の萌芽開始前後にネギアザミウマが大量捕獲され、収穫始期の若茎被害を軽減できる。

[キーワード] ネギアザミウマ、アスパラガス、粘着トラップ、物理的防除

[担当] 香川農試・病害虫担当

[連絡先] 電話番号 087-889-1121

[区分] 近畿中国四国農業・生産環境（病害虫）

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

グリーンアスパラガスのハウス栽培では、冬季に成茎を刈り取った後、ビニルを2重被覆して保温する。保温開始の数週間後から若茎が萌芽し、順次伸長してくる若茎を長期間収穫するが、成茎にネギアザミウマが発生した状態で刈り取って早期に保温すると、ハウス内に閉じこめられたネギアザミウマが若茎を加害し、収穫始期に甚大な被害が生じる。

若茎を成虫 5～10 頭が加害すると被害が生じるため、若茎萌芽前にハウス内の成虫を少なくしておく必要があるが、薬剤防除では抵抗性などによって効果が不安定である。そこで、冬季防除の一手段として、粘着トラップを用いた大量捕獲による防除を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. ネギアザミウマ成虫は黄色または青色粘着トラップで捕獲できる（[表1](#)）。黄と青の捕獲数に有意差はないが、黄の方がやや多い傾向である（記号 a～f）。しかし、黄では、捕獲数が明らかに少ない製品がある（記号 h）。
2. 保温開始日に黄色粘着トラップを設置し、ハウス内のネギアザミウマ成虫を捕獲する。この防除により、保温開始から 2～3 週間後の若茎萌芽始期において、若茎の成虫数を無防除の 2～4 割程度に抑制できる（[図1](#)）。さらに、その後の 2 週間程度は、若茎の成虫数が無防除よりも少ない状態が持続する。
3. 粘着トラップでの防除によって若茎の成虫数が少なくなることに伴い、ネギアザミウマによる若茎被害が軽減できる（[図1](#)）。
4. 粘着トラップでの防除を行わない場合でも、萌芽開始から 2～3 週間経過するとネギアザミウマの密度は低下し、若茎被害も減少する（[図1](#)）。これは、収穫した若茎とともにネギアザミウマをハウス外に持ち出すことと、増殖に適する植物質がハウス内にないことに起因すると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 柔らかな粘着剤（粘着面にふれると粘着剤が容易に付着する）が塗布されている製品を使用する。粘着剤が固い場合は、捕獲されたネギアザミウマが逃亡することがある。
2. 黄色では、透明度が高い色調の製品は捕獲数が少ない場合があるので使用しない。
3. 市販の青色粘着トラップでの防除も可能であるが、前述の粘着剤の性質に留意する。
4. 一辺が 30cm 程度の粘着トラップが捕獲効率が高いので、25×40cm の製品を 2 分割して使用してもよい。また、長方形の場合、長辺を縦にして設置する方が捕獲効率が高い。
5. 粘着トラップは 2 m 間隔を目安とし、作業の妨げにならない場所に設置する。ひもを張って吊り下げたり、支柱を立ててクリップで固定したり、割れ目をつけた竹に挟んで立てるなどの設置方法がある。できるだけ低位置に設置するが、土などが容易に付着しないように注意する。
6. 粘着トラップに接近している若茎では、トラップの色彩に誘引されたネギアザミウマが集まりやすいため、局所的に被害が抑制できないことがある。
7. 黄色粘着トラップは、アブラムシ類やコナジラミ類も捕獲できる。

[具体的データ]

表1 市販の粘着トラップにおけるネギアザミウマ捕獲成虫数の比較

製品	色彩	記号	5反復平均値	製品	色彩	記号	6反復平均値
BUG(new)	黄	a	61.8	BUG(new)	黄	g	119.0*
	青(濃い)	b	42.2	M. B.	黄(濃い)	h	25.0*
BUG(old)	黄	c	61.0	注) 記号a~fは粘着剤を除去して20×30cmに加工し、			
	青	d	44.4	S社の粘着剤を噴霧することにより、色彩のみを検討。			
BUG(roll)	黄(濃い)	e	85.2	記号gとhは約25×40cmの製品を加工せずに使用。			
	青(濃い)	f	50.6	*はt検定(p<0.05)で2者間に有意差あり。			

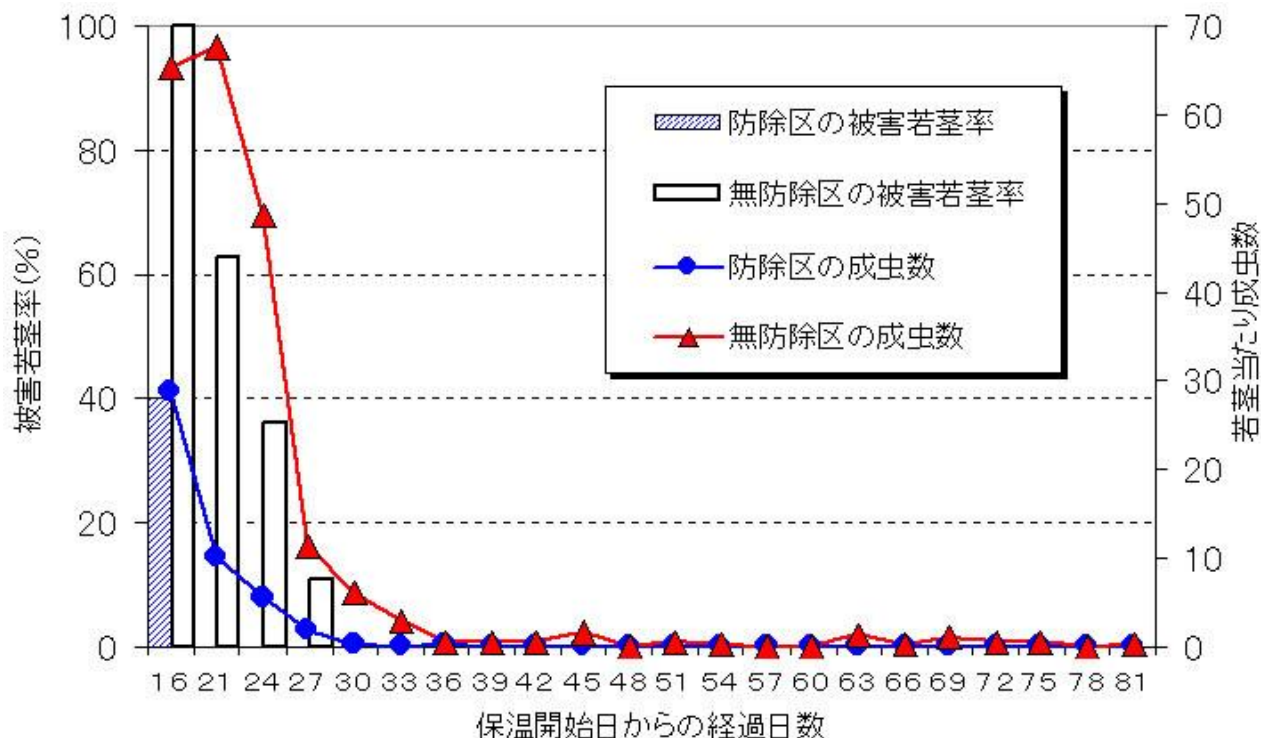


図1 黄色粘着トラップによるアスパラガスのネギアザミウマの防除効果

- 1) 2003年12月10日に成莖を刈り取り、直ちにビニルの2重被覆による保温開始。保温開始日の16日後から若莖の収穫開始。収穫した全若莖について調査した。
- 2) 刈り取り直前の成莖36カ所当たり払い落とし成虫数は、防除区が24頭、無防除区が15頭で、t検定(p>0.05)において有意差なし。
- 3) 各区の面積は54.0㎡で、防除区では保温開始直後より、市販のトラップ(表1の記号aおよびgの製品、Bi社製で横25×縦40cm)を5㎡に1枚の割合で高さ60cmから吊り下げた。
- 4) 防除区におけるトラップ1枚当たり捕獲成虫数は、保温開始日を起算日として、第1週目が1042頭、第2週目が420頭、第3週目が68頭、第4週目が1.3頭、第5~11週目は0~1頭であった。
- 5) 幼虫は、保温開始16日後の無処理区において、若莖当たり1.2頭を認めただけであった。

[その他]

研究課題名 : 超早どり・高品質アスパラガス生産技術の開発

予算区分 : 県単

研究期間 : 2001~2005年度

研究担当者 : 松本英治、森田知子

発表論文等 : 1)松本・藤本(2002) 四国植防 37:29-35.
2)松本ら(2002) 四国植防 37:37-42.